

「楽しかった」と好評

増毛山道トレッキング アンケート調査 整備継続を望む

留萌振興局環境生活課は、

多かった。

昨年七月から十月にかけて三回行った増毛山道体験トレッキングのアンケート結果をまとめた。トレッキングは、NPO法人増毛山道の会(伊達東会長)と協働し、一般参加者を募って山道一部を復元した増毛町別荘同町岩尾間の増毛山道抜け道ルート(全長十六キロ)を歩いた。歩いた感想では、三回のアンケートの回答者全員が「楽しかった」と好評だった。今後の利用方法では、トレッキングコース、歴史探索コースの回答が

増毛山道は、百五十年ほど前の江戸時代に開削され、増毛町別荘同町岩尾間区幌(二十七キロ)を結ぶ道路として使用。交通網の整備などにより使用されなくなったあとササに埋もれていた。振興局は、自然環境教育などの資源として可能性を秘めていることから平成二十一年度から復元作業を開始した。

利用のあり方を検討する取り組みを進めている。トレッキングは、参加者から感想や利用法などを聞いて利活用の参考にするため行い、歩き終えたあと調査票を回収した。当初は四回の予定だったが、一回は雨で中止した。

二十二年秋までに増毛町別荘から岩尾分岐を経由して岩尾地区に至るルートをササ刈りなどを行い、開削したあと

コースについては三十七人が回答し、十九人が「歩きやすい」、十八人が「歩きづらい」と答えほぼ半々だった。歩きづらい理由は「刈ったササが滑る」が多く、今後の整備の課題の一つになった。今後の利用希望は三十七人中、

「歩きたい」が三十人、「歩きたいとは思わない」は七人だった。



増毛町別荘同町岩尾間を歩く増毛山道体験トレッキングの参加者(昨年七月)

「どちらともいえない」

今後の利用方法(複数回答)は、「トレッキング」が最も多い三十人、次いで「歴史探索コース」二十三人になり、歴史的背景が増毛山道の魅力になることが分かった。

このほか自然観察会、自然環境教育、歩こう会の行事、遠足の学校行事などあった。

今後の方向性では、三十七人のうち「整備を続けるべき」が三十二人いて、地域資源としての可能性を認めている。環境生活課は「アンケート結果を参考に増毛山道の会などと今後の利活用を探るが、当面は安全性から一般開放はしない」と話している。

(佐々木仁)